

件 名	平成 28 年度第 3 回地区懇談会（米川 1 班、 2 班）
日 時	平成 28 年 11 月 15 日 10 時 ～ 12 時
場 所	米川公民館 会議室
参加者	米川 1 班 9 人、米川 2 班 7 人（80%）米川地区就業会員 10 人 官田理事長、村岡局長、武居主任、向井係員、松浦理事、宮川理事
議 題	<p>1. シルバーセンターの概要 官田理事長</p> <p>2. 自己紹介による会員紹介</p> <p>3. 総務委員会からのお願い 松浦理事</p> <p>シルバー人材センターの現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員数の減少に歯止めがかからない、経費予算が 20 年度比 67% まで低下 ・間接部門の合理化で対応の限界（弊害） ・対策 会員拡大により就業機会の拡大（受取事務費アップ） ・会員 1 人 1 人が会員紹介カードの活用し、会員を発掘拡大する。 <p>兼政班長の司会によりフリートーキング（・会員 ＊事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆みなさんの周りに新入会を紹介できる人はいないか？の問いかけに対し <ul style="list-style-type: none"> ➡シルバー入会を勧めても若い人はフルタイムの仕事を望み、車の運転も出来る事から他の仕事に就く。 ➡米泉湖の作業を一緒にやろうと進めて作業を見学してもらった（ヘルメット・安全ベスト）を見た時点で断られた。夏の暑い中で、ヘルメットや通気性のないベストは必要なのか。安全に本当に役立つのか、逆効果の側面も考え考えて欲しい。 ➡安全ベスト着用は夏場では大変キツイ、生地を通気性のあるもの又は目立つことが必要ならば安全タスキのようなもので代用出来ないか。 ◆ヘルメットはともかく、ベストについては検討するよう安全委員会へ話してみる。 <ul style="list-style-type: none"> ➡会員の拡大が難しいならば会員の能力を活かして、複数の仕事を紹介する事で対応できないか。 ➡米泉湖班は週 3 日しか仕事をしていないその他の日で草刈班の作業を応援しても良いのではないか。 ◆シルバーは月 10 日、週 20 時間、と言う法規制がありこれ以内であれば良いが、オーバーするとダメである。 ◆一般の人と同様に働く形態として、派遣がある、シルバー人材センターも組織形態は少し異なるが県シ連直轄の事業として派遣事業もある。相談して欲しい。 ◆会員に登録はしたが一向に仕事の紹介がないと言う人が居る。又、剪定を依頼したが 2 月以降になると言われた。剪定は作業方法が合理的でない、高所作業にスカイマスターを使うなどの対策が必要。 ◆毎年 2 月には未就業者に対し簡単な除草の共同作業案内を行っているし、アンケートも取っている。私には向かないと断られる事も多い、建物管理は希望者が多いが、就業先の条件もあり、（例えば就業開始時 70 才未満など）マッチングが難しい事も理解して欲しい。

- ◆剪定班についても会員の高齢化、新入会員がいない等で、現在2月までの仕事は一杯で受注できない、スカイマスター等の機械を導入すると業者から民業圧迫とクレームが付くいずれにしても隙間を埋める事業としての就業となる。
 - ➡流木の処理は市役所のどの部署が管理されているのか。無理そうな仕事は土木に言う処理にシルバーのトラックを貸して欲しい。
- ◆トラックの使用については、早めに連絡をして欲しい予定表に記入する。
 - ➡米泉湖管理の予算を削減しないよう要請をお願いしたい。
- ◆毎年市へ補助金の要請をはじめ、シルバー事業への理解をお願いしている。
- ◆高齢者雇用法の改正以降企業を退職する年齢は65才以上となり、新入会員の年齢が高くなった。また、退職者アンケートからも退職後仕事に付きたくないとの回答がほとんどで新入会員の獲得は難しくなっている。

一方消極的ではあるが社会とのつながりを求めている。こうした人は単なるチラシや、広報によるPRのみで会員につながる事はない、しかし知人が背中をひと押しすることにより前向きになれる。新入会員紹介カードをこうした事の助けにして欲しい。
- ◆米川には理事がいないので理事会の情報がわからない、議事録を回して欲しい。
- ◆理事会議事録を会員に公開することは定款には定めがない、総会では理事会の年間活動の報告がある。

今回初めての試みとして、米川地区独自で懇談会を行った。班長さんの努力もあり、対象会員80%の参加者と米川地区に就業する会員10人、計26人の参加を得て懇談が行われ、活発な意見交換があり、こうした活動も必要だなと感じました。

文責 宮川